

令和7年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 魂みがく 学びにはげむ 心をつなぐ 広野っ子の育成

目指す子どもの姿 目標を持ってあきらめずに努力する子 自分から進んで学ぶ子 思いやりのある行動ができる子

変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力 e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市立広野小学校
学校長 水谷 裕司
研究主体【研推・学力向上委員会】

| 前年度 | | 継続性 | 4月(※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正) | | 2~3月 年度末評価 | | |
|---------------------------|---|-----|--|---|---|--|----|
| 学力向上に向けた重点的な目標 | 年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等) | | 学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力) | 成果となる目標 (指標となる数値等) | 具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等) | (今年度の成果と来年度に向けた課題等) | 評価 |
| ・国語科における表現力、思考力の育成 | ○対話の時間を通じて、互いの意見を関係づけ、比較しながら考えを作り出す力が向上した ◆授業の中で自分の思いについて根拠を元に話したり書いたり伝え合う活動を取り入れる。 ◆文章の中から大事な言葉を見つけたり、その言葉の意図を感じ取ったりすることに課題がある。 | A | ・「書くこと」領域を中心とした国語科における表現力、思考力の育成 (b・d・g) | ①全国学力・学習状況調査の国語科「書くこと」領域の平均正答率が全国平均を上回る ②質問調査で「書き表し方を工夫して文章を書いている」の肯定評価が全国平均以上 | ・「つかむ」「考える」「深める」「ふりかえる」の学習過程を明確にした授業展開を実践する ・自分の考えをわかりやすく表現し、話したり書いたりしたいと児童が思うような手立てを講じる ・文の中から大事な言葉を見つけたり、意図を考えたりする活動を取り入れる ・単元計画を児童と共有し、つきたい力を意識させる | ○単元計画を児童と共有し、教室に掲示することで、学習の見通しを持たせることができた ○「書くこと」領域の学習指導を充実させ、毎週木曜日の「言葉の宝箱」を全校で継続的に実施し、語彙を増やすとともに、書くことの意欲を高めることができた。 ◆授業の中で自分の思いについて根拠をもとに話したり書いたり伝え合う活動をさらに充実させる必要がある ◆成果となる目標①②の達成には至らなかった | B |
| ・算数科における基礎学力の向上 | ○学習タイムでの計算練習など、計算力を高める取り組みが成果として見られている。 ◆問題場面の数値の関係を捉えて式に表すことに課題が見られたので、計算式を解く練習だけでなく、文章を読み、意味を理解して立式するような問題を練習し問題文から条件を整理したり、自分の考えを図や絵に表したりして説明する活動を行う。 | B | ・算数科における思考力・表現力の育成 (a・b・e) | ①全国学力・学習状況調査の算数科「変化と関係」領域および「文章題の立式」に関する設問の平均正答率が全国平均以上 ②単元テストにおける「思考・判断・表現」の観点の平均点が前年度比5%アップ ③質問調査で「算数の勉強は好きだ」の肯定評価が全国平均以上 | ・図、表、式などを関連付けて説明する活動を授業に位置付ける ・ペアやグループ学習を取り入れ、自分の考えや解き方を説明し合う機会を増やす ・単元テスト後の振り返りと個別指導を徹底し、未習得の児童への支援を行う | ○兵庫型学習システム教員による系統立てた指導が効果的に機能した ○個別指導やがんばりタイムでの放課後の補充学習により、課題のある児童への支援が充実した ◆問題文から条件を整理したり、自分の考えを図や絵に表したりして説明する活動を充実させる必要がある ◆成果となる目標①②③の達成には至らなかった | C |
| ・読書活動の推進 | ○「読書通帳」100冊読破児童数が増加した ○学校司書と連携した読書活動の啓発により、図書室の本を年間100冊以上借りる児童が大幅に増加した。 ◆高学年での本の貸出数が少なく、読書習慣の定着に課題がある | A | ・ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実 (c・d・f・g) | ①質問調査で「ICT機器を活用すると、友達と協力しながら学習を進めることができる」の肯定評価が全国平均以上 ②質問調査で「ICT機器を活用すると、自分の考えを分かりやすく伝えることができる」の肯定評価が全国平均以上 ③ICT機器を活用した授業が週3回以上行われる教員の割合が90%以上 | ・タブレット端末を活用した意見交流の場を積極的に設定し、協働的な学びを促進する ・クラウド環境を活用した共同編集や相互評価の機会を意図的に設定する ・ICT活用スキルに関する校内研修会を定期的実施し、教員の指導力向上を図る ・「個別最適な学び」のための学習アプリ活用と「協働的な学び」のための発表・交流の場をバランスよく設定する | ○学校評価アンケートで87.5%の教職員が「ICTを活用することで、より深い学びができた」と回答した ○ICT機器を活用することで意見交流する場を設けたり、児童の理解を深めたりすることができた。 ◆ICT機器を用いて、機器の操作の仕方、共同編集や相互評価の方法などを確かめる研修を充実させる必要がある ◆成果となる目標①②③の達成には至らなかった | C |
| ・主体的な学習習慣と自己肯定感の向上 | ○「すすんであいさつをしている」児童は、昨年度に比べて大幅に増えた。 ◆「将来の夢や目標を持っている」と答える児童が少ない。 ◆自己肯定感を高めるために、学級全体の聞く態度を意識させ、良い所見つけを定期的に行うなど、互いの良さに目を向ける活動を増やしていく。 ◆意見や考えを発表することが苦手で、家庭学習や読書習慣の確立が必要。 | A | ・発達段階に応じた読書活動の充実 (a・c・f) | ①図書室の本を年間100冊以上借りる児童の割合が全校児童の30%以上 ②質問調査で「読書は好きですか」の肯定評価が全国平均以上 ③学校評価アンケートの「子どもは家で進んで本を読んでいる」の項目で44%以上(前年度39%) | ・朝の読書タイムや読書の日を活用した全校的な読書活動を推進する ・学年に応じた読書リストを作成し、発達段階に合わせた読書指導を行う ・高学年向けの図書室利用時間を設定し、読書機会を増やす ・「三田市電子図書館」を活用し、デジタル媒体での読書も推進する ・学校司書と連携して本の紹介や読書の楽しさを伝える活動を充実させる | ○毎月23日の「広野っ子読書の日」を活用し、全校的な読書活動の推進を図ることができた ○学校司書による読み聞かせや本の紹介、学年フロアの掲示により、児童が様々なジャンルの本に触れる機会を提供できた ◆高学年での本の貸出数が少なく、読書習慣の定着に大きな課題がある ◆「三田市電子図書館」の積極的な推進を進めていく ◆一日の読書時間が30分以上と答えた児童が約24%にとどまり、全国平均を下回っている ◆成果となる目標①②の達成には至らなかった | B |
| ・ICT機器を効果的に活用した授業改善 | ○PC・タブレットなどのICT機器を、週3日以上使う児童が多い。 ○PC・タブレットなどのICT機器を活用すると、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる児童もいる。 ◆学級の雰囲気づくりや対話での交流などタブレット端末を活用した意見交流を推進し、子どもたちが友達と協力しながら自分の考えを色々な形で表現できるようにする。 | A | ・主体的な家庭学習習慣の確立 (c・f) | ①学校評価アンケートの「子どもは帰宅後に、宿題以外にも学習をする習慣が身につけている」の項目で肯定的評価が51%以上(前年度46%) ②質問調査で「学校の授業時間以外の学習時間」が1日あたり30分以上の児童の割合が全国平均以上 ③高学年で家庭学習ノートを継続的に取り組んでいる児童の割合が80%以上 | ・学年に応じた家庭学習の手引きを作成し、具体的な学習方法を示す ・自主学習ノートの効果的な活用法を指導し、優れた取組を紹介して意欲を高める ・家庭学習強化週間を定期的実施し、取組状況を可視化して評価する ・保護者会や学級通信で家庭学習の重要性を継続的に発信する | ○自主学習ノートに進んで取り組んだ児童のノートを掲示し、価値づけすることで、その良さを学級内で広めることができた ○学校・学級通信などで、定期的な家庭に意識づけを行うことができた ◆発達段階に応じた望ましい家庭学習や生活習慣の定着を図る具体的な取り組みが必要である ◆成果となる目標①②の達成には至らなかった | C |
| ・学力向上に向けた中学校区における小・中連携の推進 | ○小中学校の校内授業研究会で相互参観が始まるなど、授業交流が進んだ ◆家庭での生活・学習習慣の確立については、小・中学校で連携して具体策を講じる。 | A | ・9年間を見通した学力向上に向けた小中連携の推進 (a・b・d・g) | ①小中連携による合同研修会を年2回以上実施する ②小中連携による授業参観・交流授業を各学期に1回以上実施する | ・中学校区で学力・学習状況調査の合同分析会を実施し、9年間を見通した課題と対策を共有する ・小中学校の教員による相互授業参観と研究協議を定期的実施する | ○学校園連携交流会を年3回開催し、各担当部会(生徒指導・人権教育・特別支援)を定期的開催できた ◆家庭での生活・学習習慣の確立については、小・中学校で連携して、プラン等の配布など具体策を講じる必要がある ◆連携・交流活動を通してアイデアを出し合い、授業改善に努めるとともに効果的な活動を工夫する必要がある | B |